

# 中小企業の医工連携に関する研究

にしひら もりひで  
西平 守秀

本研究は中小企業の医工連携に関するものである。中小企業の医工連携に関する社会的、経営学的研究は未開拓の分野である。そこで、本研究では中小企業の医工連携の全体像を捉えるべく「中小企業の医工連携においてどのような本質的問題があり、またその関係がどのように形成され、展開・実行されるのか。」というリサーチ・クエスチョンを設定した。このリサーチ・クエスチョンを検討するために、3つの命題を設定し検証した。

命題1として「中小企業と医療専門家との間に認知上のギャップがある。」と設定し、まずは認知上のギャップという観点から本質的問題を探索した。検証の結果、両者の間の認知上ギャップは認められないことが分かったが、中小企業の能力不足が強く示唆された。

命題2として「医工連携に参加する中小企業は他社とは異なる資源を有している。」と設定し、資源ベースの戦略論で規定される経営資源に基づき不参加企業とは異なった、参加企業の経営資源を探索した。検証の結果は、参加・不参加企業間で相違する経営資源は認められなかったことが分かったが、参加企業にはEO (Entrepreneurial Orientation) を有することが示唆された。

命題3として「医工連携に成功する中小企業は所定の資源を有している。」と設定し、医工連携成功モデルを探索した。検証の結果、医工連携を成功に導くためには「対境担当者 (boundary personnel) 」としての担当者の存在やその役割、連携中での担当者を媒介とした組織的な能力開発及び企業の技術提案能力の高さが重要なポイントになることが示唆された。また、命題1~3のディスカッションでは医療専門家の医療ニーズに関連するニーズ情報の粘着性の高さが共通に議論された。

これら命題検証を通し上記リサーチ・クエスチョンに対する示唆として次の(1)~(3)が得られた。(1) 中小企業の医工連携における本質的な問題はそのニーズ情報の粘着性の高さから起因する中小企業の能力不足である。(2) その医工連携の関係は中小企業のEOを起点として形成される。(3) 中小企業の担当者を介した資源又は情報交換を中心としながら、企業の技術提案能力や、連携中での担当者を媒介とした組織的な能力開発を図りつつ医療専門家に対応して医工連携は展開される。

さらにこのような検証を通じて、中小企業は大胆な行動をとりながらも医療専門家との緻密な関係を構築する必要があることを提案した。